

凜とした学者 石原先生を追悼す

(社)日本都市計画学会名誉会員
法政大学教授

渡部 与四郎

石原舜介先生は「都市計画学」によって、紫綬褒章を受けられた唯一の学者である。これによって、従来の都市計画という体質が、学問として名実とともに認識された画期的な出来事と云えよう。

先生は東京工業大学で社会工学科を創設された人でもあり、日本都市計画学会会長後は期を逸せず、日本不動産学会を創り上げられた人でもある。つまり、世の中の潮流と都市計画のすすむべき途を深く、広く考えられ、勇気をもって新しい皮袋を創られた指導者であられた。

先生は中国大陸、大連市の生まれで、旅順工大でも勉強されたと聞いている。この大連は中国東北部を勢力圏とする港都とともに、桐、槐の街路樹に装われた堂々と、かつ垢抜けした都市像を有している。この活気、魅力、そしてアジアを睨んで近代的役割をもつ都市環境を原風景とされた、石原先生は「梅檀は双葉より芳し」といったすぐれた素質を生れながら持って居られた方と云えよう。

私は先生の後を受けて昭和60年から、日本都市計画学会会長を務めさせて戴いた者であるが、先生の深い洞察の下、凜とした決断を下されるやり方に敬服され続けて来た。例えば、学会賞の選考でも、ある一部の突出した傑作よりも、未来にわたって本当によい、美しい都市になりうるかの可能性に着目されて居られたと拝察した次第である。

先生は学会創立30周年後の体制強化のため、会員会費の値上げ、役員等の内規改善、そして、昭和60年1月に新事務所を「千代田区麴町3-4ビルディング啓」に移転する等について、見事なリーダーシップを発揮されたのである。とくに、昭和37年以降の都市計画会館内での北側に面した間借りの状態から、何とか独り立ちになり、明る



故 石原 舜介 氏

本会の元会長石原舜介氏には平成8年4月16日永眠されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

社団法人 日本都市計画学会

い陽差しを受けての業務から開始されることになったことは、学会にとって持筆すべきことと考える。

石原先生の座右銘は聞くことができなかったが、何時も正々堂々、憶することなく正論を吐かれていた凜とした姿勢は、後輩にとってはすがすがしいものであった。この清風を我々は大事にしたいものである。

私は、或る日、石原先生から防衛施設中央審議会委員のバトンタッチの要請を受けた。その審議会で、伊豆の三宅島で米軍が航空母艦並みでの訓練するとのワシントン筋からの報告がなされた。私は三宅島民が耐えがたい斗争に巻き込まれるのを察し、硫黄島での訓練を主張し、やがて輿論がバックアップし、暫定的ではあるが、その方向で治まる事になった。

この様な判断は、石原先生の持味である「凜とした正論」から学ばせて戴いたと思っている。先生は生前、酒は嗜まない理性の人であったが、大往生の後はゆっくりとされ、日本都市計画学会の生々発展を見守って戴きたいものとする。謹んで、御冥福をお祈り致します。

石原舜介先生の業績

教え子一同

石原舜介先生は、四十数年の永きにわたり都市計画学全般及び社会学、建築学、不動産の教育・研究に専念して顕著な業績をあげ、多数の優れた人材を育成し、常に都市計画学の発展に指導的役割を果たしてきた。その成果として多くの業績が上げられるが、その主なものは次のとおりである。

石原舜介先生の研究は、当時科学技術から遠かった都市政策に関して、都市計画学の確立とその本質的問題を指摘し、将来の技術の基礎を築くための開拓的研究を行ってきており、都市政策・都市問題の各分野に、都市計画技術を確立し、今日、ソフト・テクノロジーと呼ばれる分野の主要な部分を形成している計画技術の基礎を築いた。

特に、都市計画の主要な対象である土地・建物などの階層別の空間価値についての研究は、土地利用効用比の理論を通じて不動産鑑定基準の作成や市街地再開発事業の権利交換計画の基礎となっている。これらの研究は、都市において民営施設等各種の施設の必要性和必要規模、実現性を明確にしたもので、新都市（ニュータウン）の計画基準にまとめられ、日本都市計画学会賞を与えられた。

さらに、住環境の改善に関して、「生活連関表」の研究、社会指標の開発など都市を経営的に見るという考え方を提案した技術手法は都市建設に重要な一つの根拠を与え、この一連の研究業績にたいして日本建築学会賞が与えられた。また、OECD都市問題会議グループ来日の際の日本側委員の一員として議長をつとめ、先進国の都市政策問題・大都市問題の研究に大きく貢献した。また

以上の功績によって平成元年に紫綬褒章を賜与された。

石原舜介先生の研究分野である都市計画学、社会学、不動産学について、研究者及び学生に講演や総説及び著書などによって知識の普及に勤めた。「商店街再開発（監著、科学技術センター）」「NHK市民大学叢書、都市の制御、都市と市民、都市の経営（編著、NHK）」「都市計画（編著、放送大学教育振興会）」などは都市計画学の啓蒙、普及に貢献した。また、「都市社会システム（システム工学講座10、編著、日刊工業新聞）」「地域施設商業（建築計画2、共著、丸善）」「都市再開発とまちづくり（監著、技報堂出版）」などは、同人及びその共同研究者の研究成果の著作であるが、同時に都市計画学研究者に研究の基礎を与えた。「不動産学概論（共著、リクルート）」「不動産学概論（共著、放送大学教育振興会）」などは不動産学の教科書として、学生に供されると共に、都市計画学、不動産学、社会学の一般的紹介に貢献した。

以上のように石原舜介先生は、都市計画学、社会学、不動産学の分野において、数多くの研究成果を上げ、その発展に専念するとともに、多数の有能な人材を育成し、教育界ならびに学会に尽くした。